



聖心女子学院  
初等科・中等科・高等科

探究学習「みまころ」で育てる、  
深く考える力と発信する力

①～④は授業の様子。児童が活発に意見を述べていた。どの授業でも、児童の考えを引き出すような授業を行っている。④と⑤は発表の様子。④は卒業研究の作品。まとめ方も工夫し、実物や模型を作って展示する児童もいる。⑤は2月に行われる発表。児童と保護者が見ている中で5分間プレゼンテーションを行う。



PICK-UP

自らテーマを設定  
班ごとに教員が伴走

総合的な学習の時間に、5年は個人研究、6年は卒業研究として探究活動「みまころ」の授業を行っている。自分で決めたテーマを1年かけて研究し、まとめて2月に発表する。5年生は模造紙にまとめ5分間スピーチし、6年はITを使い、映像資料を示しながらプレゼンテーションを行う。6年はテーマを決めたら4～5人の児童を教員1人が担当し発表まで伴走する。児童たちは調べるだけでなく実験したり、インタビューしたり、フィールドワークを行ったりして研究を深めているという。



聖心女子学院初等科6年の卒業研究「みまころ」は、30年以上前から続いています。「人・自然・世界」に関わるテーマについて学習する時間を「みまころ」と呼び、3年から取り組んでいます。6年では一人ひとりがテーマを設定・追究し、2月に発表しています。

授業の初めに、1年間の「卒業研究の6つのステップ」を確認しました。研究は「①課題を明確にする→②情報を集める→③情報を選ぶ→④情報をまとめる→⑤発表する」という過程で進めますが、特に「⑥振り返る」ことが大切である、と指導しました。②情報を集める」方法については、児童から「文献にあたる」「専門家にインタビューする」「実験する」「博物館に行く」など、多様な方法が出されました。研究を追究していく上で「ねらいをはっきりさせ、必要な情報を集めて整理し、自分の言葉でまとめることが大切」とまとめました。

卒業研究は、一人ひとりが関心をもつて選んだテーマなので、主体的に取り組んでいます。自ら課題を見つけて、情報を収集・整理しながら自分の言葉でまとめ、発表まで行うので、課題追究の力、情報収集・整理する力、まとめて発信する力、主体的・協働的な力など総合的な力が身に付きます。



中津 和巳 先生



今日は「卒業研究のテーマを育てる」授業でした。研究テーマを決める学習では、ウェブページという手法を用い、疑問や興味が広がるテーマを設定するよう指導しています。ウェブページ作成では、PCを使用、画面

の中心に自分の調べたいテーマを置き、そこから考えられる疑問を広げ、グループニングしてつないだテーマを多面的にとらえて、テーマに迫っていくことをねらいとしています。

**意見を交換して  
テーマを深めていく**

まず、ウェブページとはどういうものなのか学ぶために、教員から「ウクライナ問題」をテーマとしたウェブページを例として挙げ、問いが妥当かを考え、問いの作り方を学びました。次に、テーマを明確にするために、各自が作成したウェブページについてグループ内で意見交換をします。互いに学び合うことで、視点を広げたり、自分の考えを確認したりすることができました。教員がゴールを決めるのではなく、児童が主体的・協働的に取り組めるように指導し、テーマに迫っていきます。





シスター 大山 江理子

現実の世界でいかに生きていくべきかを学びます。私は高3を担当していますが、世の中で起きている様々なことを取り上げ、キリスト教の観点からどのように考え、どのような行動

本校は初等科から高等科まで同じキャンパスで学んでいます。その特徴をいかして、創立100周年の2008年から、12年を4年ごとに区切る3ステージ制を取り入れました。女子の発達は、小学5年ごろから思春期が始まって中学2年で一段落し、中学3年から大人の段階に入っていきます。その発達段階に合わせて、より効果の高い教育を行っています。たとえば移行期である小5から中2では「セカンドステージ教科部会」を設け、より良い授業の在り方について、教員が話し合いを重ね、教科に

よって、中高教員が専門的な授業を行います。行事などでは小4をファーストステージ、中2をセカンドステージのリーダーとして、司会進行などを任せます。各ステージの特性を捉え、教員が連携して活躍の場面を作るようにしています。小5で転編入生を受け入れています。

**奉仕活動に全員参加 人と共に生きる**

本校はキリスト教の学校で、全学年に週1時間、宗教の時間が設けられています。教えだけでなく、キリスト教の価値観をもとにした道徳観や、現実の世界でいかに生きていくべきかを学びます。私は高3を担当していますが、世の中で起きている様々なことを取り上げ、キリスト教の観点からどのように考え、どのような行動



都心にありながら、たくさんの木や草花が植えられた緑豊かなキャンパス。自然との触れあいを楽しむ。



**聖心女子学院 初等科・中等科・高等科 Sacred Heart School**  
**発達段階に合わせた4・4・4制で 児童・生徒の可能性を引き出す**



どの授業も児童が主体。先生の問いかけに大勢の児童が手を上げ、しっかりと自分の意見を述べていた。

**男女を意識せずに 何にでもチャレンジ**

本校の特徴的な学習に探究活動の「みこころ」があります。教科の枠にはまらずテーマを追求していくことは、大事なことです。私達が目指しているのは、主体的な学習者の育成です。自分でテーマを決めて問いを立て、解決のために課題に取り組む姿勢は、社会に出たとき、多に活かしてくるのではないのでしょうか。本校は女子校ですから、男子、女子の役割と区別せずに生徒たちは何でも自分たちで取り組みます。伸び盛りの時期に、男女を意識せず、1人の人間としていろいろなことにチャレンジし自分の可能性が開かれる環境は非常に大切だと思います。

問い合わせ先

聖心女子学院 初等科・中等科・高等科 <https://www.tky-sacred-heart.ed.jp/>  
〒108-0072 東京都港区白金4-11-1 TEL.03-3444-7671





# せいしんじょし がくいん 聖心女子学院 初等科・中等科・高等科

帰国生数 小 60名 中 61名 高 49名

編入期限 高1・9月 認定 ユネスコスクール

帰国生へのおすすめPoint!

- 1 世界中にある姉妹校との交流が盛ん
- 2 タスクベースの「英語」の授業
- 3 ユネスコスクールの認定校



校長  
Sr.大山先生



## 2世紀に渡り、教育の随所でSDGsが根付く学校

2015年に国連サミットで採択され、近年世界的な広がりを見せている持続可能な開発目標SDGs。この考え方は、創立以来2世紀に渡って受け継がれてきた本校の教育理念「一人ひとりが神の愛を受けたかけがえのない存在であることを知り、世界の一員としての連帯感と使命感を持って、より良い社会を築くことに貢献する」にまさに合致しています。

そのため本校では、授業をはじめホームルームなど教育のあらゆる場にSDGsの考え方が深く根付いています。課外活動でもそれは同様で、プラスチックの使用を最小限に抑えた学校を目指す「プラスチックフリーキャンパス」の活動など様々な団体がSDGsに取り組んでいます。また2021年6月には、University of San Diegoが主催する英語によるSDGsに関する課題解決コンテストにて、本

校の国際問題研究サークルの制作動画が2位を受賞しました。

## 世界中の姉妹校、卒業生との深いつながり

小1から先進的なICT教育を行っている本校ですが、COVID-19による渡航制限が続く中でも、世界32カ国・地域にまたがる姉妹校ネットワークはもちろん、世界各国・地域で活躍する卒業生ネットワークを大いに活用しています。University of San Diegoでのオンライン語学研修(2週間、高2・高3希望者)、University of TorontoやUniversity of Washingtonなど海外大学へ進学した生徒による進学準備講座やオンライン現地レポート、Stanford Universityで教育に携わる卒業生を通じた日系2世の方によるオンライン講演会、JICAに勤務する卒業生による講演会など、様々な活動を行っています。

## 2021年 大学合格実績(抜粋)

国公立大学		私立大学		法政大学	
京都大学	1	聖心女子大学	12	学習院大学	3
筑波大学	1	慶應義塾大学	29	東京理科大学	3
東京外国語大学	1	上智大学	20	東京女子医科大学	2
東京藝術大学	1	早稲田大学	10	聖マリアンナ医科大学	2
東京農工大学	1	明治大学	11	東邦大学(医)	1
横浜国立大学	1	青山学院大学	7	立命館アジア太平洋大学	4
国際教養大学	1	立教大学	9	海外大学(過年度)	
東京都立大学	1	中央大学	3	U.of Southern California	1

## 帰国生入試(中学1年生)要項(この他に7月転入試・編入試も実施)

募集人員	10名
出願資格	2022年3月に小学校を卒業見込みの者。次のAまたはBを満たす者。【A】継続して2年以上海外に在留し、2019年3月1日以降に帰国した者。【B】出願時に海外在留中で、在留期間が継続して2年以上となり、2022年3月末日に帰国予定の者。
内容	国・算・作文(英語または日本語)、面接
日程	12/22(水)

## 説明会日程

学校説明会	11/13(土) 13:30~ ※要予約。
文化祭	10/9(土) ※詳細は本校HPでご確認ください。

問い合わせ ▶ P.70





# 長きにわたる女子教育の伝統を基盤に、 世界と未来を見据えた取り組みを推進

聖心女子学院では、初等科1年から高等科3年までの12年間を4年ごとの3ステージに区切る「4-4-4制」を導入し、女子の発達段階に適した独自の教育を実践しています。なかでも、国内の6校をはじめ、世界32か国・約150校の姉妹校との教育ネットワークを生かした国際交流は幅広く、生徒たちは世界を見据えて学びを深めています。革新的な同校の教育について、校長の大山江理子先生に伺いました。

## 海外姉妹校と活発に交流し 世界全体の課題について考える

聖心女子学院が大切にしているのは、生徒一人ひとりが持つ力を未来に向けて伸ばす教育です。「人種や国籍を超えて共生していくにはどうすればいいのか、主体的に考える力を育てたい」と校長の大山先生は話します。

同校では、世界32か国・約150校の姉妹校から成るネットワークを活用し、国際交流の機会を数多く設けています。短期留学の行き先は、アメリカ、アイルランド、メキシコ、カナダなど多岐にわたり、生徒たちはそのなかから行きたい国や学校を選び、ホームステイをしながら3〜4週間の学校生活を送ります。「アイルランドでは、冬のキャンプなどを体験するのですが、参加した生徒は、現地の人々のたくましさや温かい人柄に感動して帰ってきます。現地での日常を知ることが国際理解の第一歩。日本とは異なる文化に

触れることで、視野が広がります」と大山先生。

その一方で、アジアの国々とのほか、校と協力して行う海外体験学習では、カンボジア、フィリピン、韓国、タイ、台湾の人々と共に、SDGs（持続可能な開発目標）について考えます。今年度は約30名の高校生が「カンボジア学習」を進めており、夏以降にオンラインで交流できるよう準備しています。そのほか、「プラスチックフリーキャンペーン」プロジェクトに取り組むグループもあるなど、社会貢献への意識が高いのも同校の特色といえます。



校長 大山 江理子先生

## 卒業生の半数以上が他大学へ。 小5で転入・編入試験を実施

英語教育に定評がある同校ですが、理数教育にも力を入れています。12年間を4年ごとの3ステージに区切る「4-4-4制」のファーストステージ（小1〜4）から、理科の授業では実験や観察を頻繁に行い、知識の習得だけでなく、自分で確認しながら学ぶプロセスを大切にしています。中・高等科の理科の教員が全員女性であることも、生徒にとって一つのモデルに。生徒からは、「理科の授業はとても楽しい」という声が多く聞かれるそうです。

このような下地があるためか、近年は理系志望の生徒が増加。卒業生の半数以上が他大学に進むなど、進路は多様化しています。これも、中3か



理科の授業では、実験や観察から得た学びを大切にしています

### Information

- 【初等科5年転入・編入説明会】要予約  
11月13日(土)
- 【体験授業】要予約  
11月13日(土)
- 【みこころ祭(文化祭)】  
10月 9日(土)
- 【中等部クリスマス・ウィッシング】  
要予約  
12月20日(月)

### プロフィール

#### 聖心女子学院初等科・ 中等科・高等科

所在地：〒108-0072  
東京都港区白金4-11-1  
交通：東京メトロ南北線・都営三田線「白金台」駅より徒歩10分  
TEL：03-3444-7671  
HP：www.tky-sacred-heart.ed.jp



未来のために  
学びます



教育の根底にはキリスト教の精神がある。「18歳の姿」をイメージしながら、魂、知性、実行力をバランスよく育てる。

### 英語とICTで 世界とつながる

重視しているのがグローバル教育だ。初等科では週2時間英語の授業があり、ネイティブ教員と日本人教員によるオールイングリッシュの授業が初1から始まる。

もらいます。セカンドステージ（初5〜中2）は思春期真っただ中。精神的にも知的にもステップアップしていきま

6年生の授業をのぞくと、日本の名所を紹介する「Let's Travel to OO」という動画の制作中だった。

子どもたちはグループごとに広島、軽井沢、山形などの観光地の画像をタブレットで編集し、プロジェクターに映して英語で説明していく。プレゼンを指導するのはブレット・トニライト先生。「にこやかに、体全体を使って！」と子どもたちに英語で伝える。完成した動画はオーストラリアの姉妹校に送るそうだ。「英語とICTを使い、世界中の国々の同世代とつながることができません。今後は趣味

などについて語る動画を作り、同世代ならではの情報交換をしていきたいですね」（川島恵先生）

このような英語教育の成果は、高等科生になって花開いているという。昨年はジェイコブズ研究所のイノベーションチャレンジの国際大会で、高等科のチームがトーションズのリサイクルについて発表。世界11カ国の学生の中で2位となった。「英語を学ぶことで国際的な問題にも目を向けるようになります。社会に貢献できる人になることも、英語を学ぶ意義です」（大山校長）



姉妹校は世界32カ国にある。アフリカ・コンゴ民主共和国のシスター（上）やオーストラリアの留学生（右）と交流。



テキストとして使う手作りのプリント（左・右）。子どもたちの手による絵手紙（中）は高齢者施設や被災地、姉妹校のある国に送られた。

### Column

## 魅力 発見

### タブレットは1人1台 デジタルマナーも指導

いち早くICT教育をスタートさせている聖心女子学院。2014年からインターネット環境を整備し、各教室にプロジェクターを設置。現在では1年生から6年生まで、1人1台のタブレットを使える環境を整えている。「タブレットを利用して、学年に合わせたプログラミングの授業を展開しています」と、ICT担当教員の松瀬仁先生は言う。低学年は、パズルやゲームで楽しく遊びながらプログラミングの仕組みを学び、高学年では、図形の作図や電気の働きなどプログラミングを通して学習の

理解を深めていく。

ほかにも、デジタル教科書や、表計算ソフト等を活用する。授業には共有アプリも欠かせない。友だちの解答をみんなで共有し、感想や考え方を伝え合うことが簡単にできるようになったと松瀬先生は言う。「子どもたちは吸収が速く、お互いに教え合って先へ先へと進んでいき、期待以上の成果を出してくれる。一方で、デジタルマナーの教育も不可欠です。専門家を招いての学習会や、ご家庭を巻き込んだのルール作りにも力を入れています」



6年生のプログラミングの授業。タブレットと電球を連動させる（上）。3年生の総合の授業。タブレットで植物を観察（左）。

HPではわからない

